



XON Holistic Service “DNAi”

# 2018 年度 内定者・新入社員教育 サービスパンフレット



株式会社シンカーミクセル

XON Holistic Service  
“DNAi”



## 目次

株式会社シンカーミクセル主催新入社員研修の特徴 .....	5
特徴 1.....	5
特徴 2.....	5
特徴 3.....	5
特徴 4.....	5
特徴 5.....	6
特徴 6.....	6
特徴 7.....	6
特徴 8.....	6
<b>XON RECRUIT'S ACADEMY</b> （エクソンリクルーツアカデミー） .....	8
概要 .....	8
対象者.....	8
特徴 .....	8
研修プログラム .....	8
<b>I Tエンジニア基礎講座 [新入社員向け研修]</b> .....	9
概要 .....	9
目的 .....	9
目標 .....	9
特徴 .....	9
効果 .....	10
期間・時間.....	10
研修形式 .....	10
成果物.....	10
評価レポート.....	10
2018年度研修スケジュール（予定） .....	11
<b>専門技術研修（初級）</b> .....	12
目的 .....	12
目標 .....	12
特徴 .....	12
期間・時間.....	12
研修形式 .....	12
学習内容 .....	12
2018年度研修スケジュール（予定） .....	13
<b>JAVA 応用研修※オプション</b> .....	14

目的 .....	14
目標 .....	14
期間・時間 .....	14
研修形式 .....	14
学習内容 .....	14
2018年度研修スケジュール（予定） .....	15
<b>新入社員フォローアップ研修</b> .....	<b>16</b>
目的 .....	16
特徴 .....	16
対象者 .....	16
期間・時間 .....	16
研修カリキュラム例（「先輩とのコミュニケーションの取り方」編） .....	16
研修カリキュラム例（「後輩への接し方」編） .....	17
<b>XON ACADEMY（エクソンアカデミー）</b> .....	<b>17</b>

# 株式会社シンカーミクセル主催新入社員研修の特徴

## ■特徴 1

### 【1.5 カ年間の教育期間】

内定者教育、新入社員研修、そして新入社員フォローアップ研修と 1.5 カ年間御社の大切な新入社員をお預かりします。目的・目標意識、問題・課題意識を持った自律的 PDCA が回せる社員を育成します。

#### <内定者教育>

当社主催の就活支援・就職前支援コースを展開している XON Recruit'S Academy を受講できます。内定者教育を通して、意識が入社に向かうので、内定承諾辞退予防ができます。新入社員研修スタート時に 0 ではなく、2 や 3 からスタートでき、意識の面で研修を楽に始められます。

#### <新入社員研修>

ビジネスマナー、挨拶、電話対応、ビジネス文書力や社会人としての意識づけなど、社会人基礎力を研修期間継続して教育します。心身ともにビジネスマインドを身につけます。

SE ワークの上流から下流工程まで意識した疑似体験型でリアル感のある教育をしています。

IT スキル教育では、学習速度が伴わない受講生に特別訓練（通称「IT 版ブートキャンプ」）を設けています。

#### <新入社員フォローアップ研修>

同じ鎌の飯を食べた同士が集まり、お互いの成長度合いを確認する場を提供しています。

会社以外で相談できる同僚がいることで離職を防げます。

【10 月テーマ】年配者・上司とのコミュニケーション・人間関係を見直す機会を持つ

【3 月テーマ】先輩社員としての心構えを醸成する

## ■特徴 2

### 【講師は現役エンジニア】

研修講師は可能な限り、現役のエンジニアを起用します。エンジニアとしての心構え、業務での注意点、どんなスキル・経験が必要なのかを、経験を踏まえながら説明することで、何のために研修で学ぶ必要があるのか、納得感が高まり、より効果的に知識・スキルをインプットすることができます。

## ■特徴 3

### 【3 か月間の新入社員研修にしっかりとつながり感がある】

4 月の IT エンジニア業務(SE ワーク) で IT エンジニア (SE) 業務の全工程を疑似体験します。4 月にお客様要求のもと、基本設計を作成します。5 月に開発エンジニアとして活躍するための基本的な基礎知識の習得と演習を繰り返し、力を付けます。6 月に、実際のシステム開発プロジェクトで使う技術力を身につけ、4 月に作成した設計書を使用し、実際に開発演習をします。4 月から 6 月まで研修に参加することで、IT エンジニア (SE) 業務の一連の流れのつながりを理解することができます。

## ■特徴 4

### 【ビジネスマナー・社会人基礎力を継続的に学ぶ】

挨拶、電話対応、報告・連絡・相談、社内外文書、などのビジネスマナーは数日学習して身につくものではありません。研修中に「習うより慣れろ」形式で継続教育します。

## ■特徴 5

### 【日報・週報】

日報・週報は、受講生から、宛先：御社教育責任者・担当者、CC:研修講師という形でやり取りが行われます。御社に受講生から日報または週報が届き、御社教育責任者・担当者がコメントをすることで、研修中もやり取りが生じます。受研修の状況をうかがい知ることができます。

受講生のパーソナリティ、行動特性、研修状況・内容の分かる・分からない部分、強み・弱みを知ることができます。繰り返し文章の添削を受けることでビジネス文書力が付きます。

### 【具体的内容】

最初の2週間は、日報を書いてもらいます。

#### <1週間目>

社内文書を意識して、文語調の敬語の書き方、メール送信体裁、添付メールのパスワードづけ（情報セキュリティを意識する）を中心に添削します。

#### <2週間目>

文書の書き方、特に業務報告の書き方を中心に添削します。文書を確認する方は、研修の受講内容を知らない教育責任・担当者であることを意識し、結論・研修の具体的内容など、課題⇒原因⇒その対策と PDCA を意識して、業務報告を作成することを意識します。

#### <3週間以降>

ある程度の文書作成基準に達する2週間以降は日報から週報に切り替える。総合的にレベル感を上げると同時に、研修中に起こる心理的な変化を文章から読み取ります。講師は、受講生自身を直接観察しているので、文章の変化をキャッチしやすい状況にあります。

## ■特徴 6

### 【ストレスチェック】

原則2週間毎に実施します。結果の数値に2つ以上低い点数が見つかったら、御社に一報します。

講師陣が観察し、症状が明らかな場合は個別面談します。個別面談の様子も逐一報告します。

## ■特徴 7

### 【毎月の報告会】

4月、5月、6月は毎月受講生の研修受講状況をするため、御社に報告に伺います。

IT技術、ビジネスマナー、ヒューマンスキル、ストレス耐性など総合的に受講生の傾向を定量・定性の両方から評価し、報告をします。

## ■特徴 8

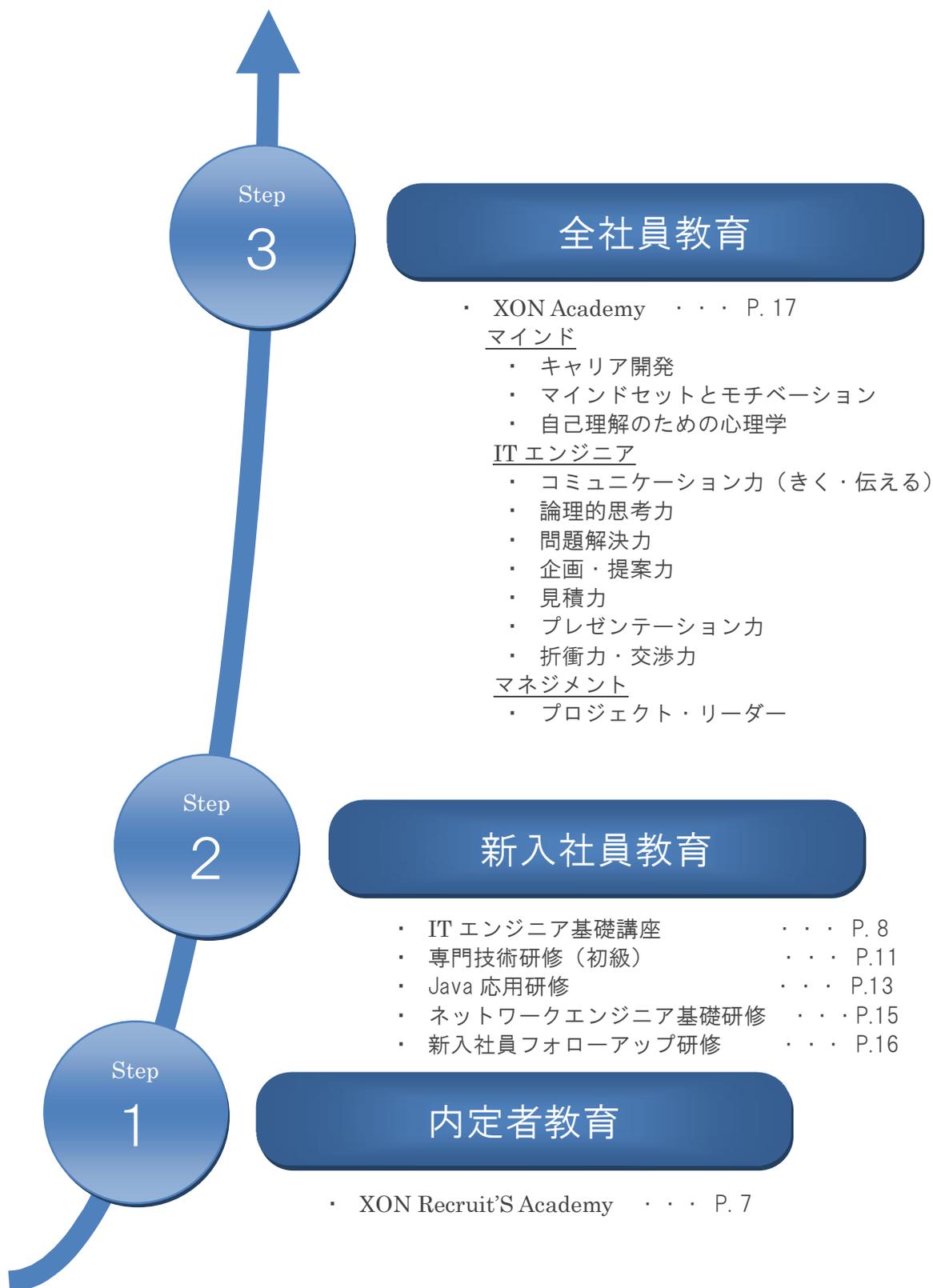
### 【SE・マネジメント志向のIT企業が多い】

当社の新入社員研修参加企業の多くが、SE志向・マネジメント志向のIT企業です。

参加企業の社員の方々は、年次の早い段階(2-5年程度)から、プロジェクトリーダーやサブリーダーを経験します。年配のビジネスパートナー（BP）をマネジメントする、お客様とやり取りをすることを前提に育成を望まれています。新入社員研修から意識づけと疑似体験をすることで実感値を高めていきます。また、同じような志向の企業同士で情報交換ができる機会があります。

# 継続教育によるステップアップ

内定者教育から新入社員教育、XON Academy の3ステップの継続教育で段階的なスキルアップを支援します。



# XON Recruit\$ Academy(エクソンリクルーツアカデミー)

## ■概要

XON Recruit'S Academy を受講することにより、社会人としてのマインド形成、基礎知識・技術・技能（スキル）形成をすることができます。

社会人に必要なマインド・知識・スキルを習得することで、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」についての企業と学生の考えのギャップを埋められ、企業の求める社会人像に近づくことができ、社会のニーズに合う人材へと成長をすることができます。

## ■対象者

内定者

## ■特徴

1. 社会人準備と IT スキル・PC スキルを習得する教育を提供します。



内定期間中や入社後に必要な、社会人基礎力と IT スキルを習得をして、社会人として弾みをつけます。自宅ですキルアップに取り組めるデジタル教材（Educational Square）を提供します。

内定期間中や入社後の各社研修において専門知識を習得する必要があるため、そのベースとして社会人としての基礎能力と日常業務に必要な IT スキルの習得をしておくことで、各社研修の内容や業務を早期に吸収する力を養います。

2. 自宅ですキルアップに取り組める e-learning を提供します。（予定）

## ■研修プログラム

以下のセミナーが全て受け放題になります。

カテゴリー	セミナーカリキュラム	
社会人準備 所要時間：2.5 時間 定員数：15 名/回 会場：当社グループ内	キャリア開発	自分の強みを見つけ、社会人としての目標を立てる
	企業研究・業界研究の手法	あなたに関連する企業や業界を深く知る
	社会人のビジネスマナー	会社を印象付けるビジネスマナーを身に付ける
	仕事の基礎スキル	仕事上のコミュニケーションツールを使えるようになる
IT スキル 所要時間：3 時間 定員数：10 名/回 会場：当社グループ内	初心者のためのパソコン基礎（windows 基本操作）	
	タイピング	
	Microsoft Office Word-1、2	
	Microsoft Office Excel-1、2	
	プログラミング入門-1、2	
	HTML、CSS	
JavaScript1、2、3		

# ITエンジニア基礎講座 [新入社員向け研修]

## ■概要

「IT エンジニア基礎講座」は IT プロジェクトで経験する IT エンジニアの一連の業務を疑似的に体験する研修です。IT エンジニア業務全体を短期間で理解することができ、IT エンジニアに必要な基礎知識やスキルを効果的に学ぶことができます。特に SE・プロジェクトマネジメント志向を重視した研修プログラム構成になっています。

## ■目的

IT 業界の社会人として、基本的な業務を上級者のサポートを一部受けながら実施できるようになる

## ■目標

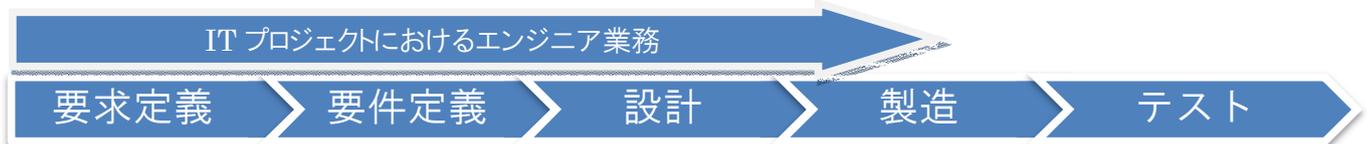
1. 学生から社会人への意識の転換をする
2. IT エンジニア業務の全行程を体験することで全体最適の意識を醸成する
3. 能動的（主体的）になる
4. 社会人として考える軸をつくる

## ■特徴

「IT エンジニア基礎講座」の大きな特徴は次の3つです。

1. IT プロジェクトの一連の流れを疑似体験できる

研修は、顧客訪問をして顧客要求のヒアリングから始まります。そして、要求定義、要件定義、設計、プログラム製造、テスト、導入、運用までの一連の流れを体験します。



2. IT エンジニアに必要な基礎知識・スキルを幅広く習得

学習内容は、設計やプログラミングだけでなく、ビジネスマナーや報・連・相、時間管理など、IT エンジニアに必要な基礎力を幅広く習得できます。

ビジネスマナー・ 社会人基礎	・社会人としての意識づけ、身だしなみ、挨拶・お辞儀、敬語、名刺交換、報連相、電話対応、来客対応・席次・酒席のマナー、訪問、ビジネス文書、会議、議事録、会社紹介、時間管理、QCD、5S、チームワーク、コミュニケーション、情報セキュリティ
要求定義・要件定義	・ヒアリング、情報収集・整理、問題解決技法、見積、企画、提案、要件定義、プレゼンテーション
設計・製造・テスト	・システム開発工程、基本設計、詳細設計、プログラム製造、html、データベース、テスト仕様書

3. 他社社員との交流

他社社員との交流で刺激を受けながら、研修でともに切磋琢磨することで、良い関係を築けます。

## ■効果

### 1. 「知っている」 から「納得している」 気づきの深さ

講義で学習した内容を実際に体験することで、頭で理解したことが腑に落ちて、単に「知っている」という状態から「納得している」状態に変わります。そのため、学んだ事を実践できるようになります。

### 2. 広い視野と新たな視点をもつ

上記1.の体験により IT エンジニア業務の全体像を捉えられ、視野が広がり、新たな視点をもたらします。

#### ①全体最適の視点

IT エンジニアの業務を疑似体験することで上流から下流までの一連の業務が理解できます。例えば、「プログラマーが作業し易いように設計書を作成する」など、前後の工程への気遣い、心配りができるようになります。

#### ②顧客視点

顧客ヒアリング、企画・提案体験を通じて、顧客の立場になって考えることや、真のニーズを捉え、課題解決に導くことの重要性を理解します。

#### ③チームワーク

チーム作業を通じて、報連相や情報共有、役割分担など組織の中で必要な行動の理解を促します。

## ■期間・時間

4月3日～5月2日（22日間・176時間） 9：00～18：00

## ■研修形式

仮想の会社を設立し、ある法人顧客に対して、ビジネス要求を聞き出し、システム要件をまとめ、提案をするチームによる活動形式を取ります。

違う会社の社員でチームを編成する他流試合形式で、他社社員との交流を促進します。

## ■成果物

システム提案書、システム設計書、テスト結果報告書、プログラムソース

## ■評価レポート

研修の前後で以下の項目について、受講者本人の評価、および、研修講師の評価を行います。研修後に研修評価レポートとしてご報告します。

大項目	中項目
ビジネスマナー	身だしなみ、挨拶、敬語、電話対応、名刺交換
ビジネス文書	議事録、提案書、メール
業務遂行	報告・連絡・相談
執務態度	責任性
	積極性
	規則性
	協調性
計画力	PDCAを回す

## ■2018 年度研修スケジュール（予定）

4月2日(月)	4月3日(火)	4月4日(水)	4月5日(木)	4月6日(金)
入社式	<b>■</b> ビジネスマナー ▽講義・実習 オリエンテーション ビジネスマナー	<b>■</b> ビジネスマナー ▽講義・実習 ビジネスマナー	<b>■</b> 要求定義・要件定義 ▽講義 要求定義・要件定義 ▽実習 ヒアリング 情報整理・分析 <b>■</b> 社会人基礎	<b>■</b> 要求定義・要件定義 ▽講義 要求定義・要件定義 ▽実習 ヒアリング 情報整理・分析
4月9日(月)	4月10日(火)	4月11日(水)	4月12日(木)	4月13日(金)
<b>■</b> 要求定義・要件定義 ▽講義 要求定義・要件定義 ▽実習 ヒアリング 情報整理・分析 <b>■</b> 社会人基礎	<b>■</b> 要求定義・要件定義 ▽講義 要求定義・要件定義 ▽実習 ヒアリング 情報整理・分析 <b>■</b> 社会人基礎	<b>■</b> 要求定義・要件定義 ▽講義 要求定義・要件定義 ▽実習 システム概要整理 提案書・見積書作成 要件定義書作成	<b>■</b> 要求定義・要件定義 ▽講義 要求定義・要件定義 ▽実習 システム概要整理 提案書・見積書作成 要件定義書作成	<b>■</b> 要求定義・要件定義 ▽講義 要求定義・要件定義 ▽実習 システム概要整理 提案書・見積書作成 要件定義書作成
4月16日(月)	4月17日(火)	4月18日(水)	4月19日(木)	4月20日(金)
<b>■</b> 要求定義・要件定義 ▽講義 要求定義・要件定義 ▽実習 システム概要整理 提案書・見積書作成 要件定義書作成	<b>■</b> 要求定義・要件定義 ▽実習 提案プレゼンテーション レビュー	<b>■</b> 設計・製造・テスト ▽講義 システム開発工程 HTML	<b>■</b> 設計・製造・テスト ▽講義 データベース ▽実習 システムヒアリング 基本設計 データベース設計	<b>■</b> 設計・製造・テスト ▽講義 データベース ▽実習 システムヒアリング 基本設計 データベース設計 <b>■</b> 社会人基礎
4月23日(月)	4月24日(火)	4月25日(水)	4月26日(木)	4月27日(金)
<b>■</b> 設計・製造・テスト ▽講義 設計 ▽実習 システムヒアリング 基本設計 データベース設計	<b>■</b> 設計・製造・テスト ▽講義 設計 ▽実習 システムヒアリング 基本設計 データベース設計 <b>■</b> 社会人基礎	<b>■</b> 設計・製造・テスト ▽講義 設計 ▽実習 システムヒアリング 基本設計 データベース設計	<b>■</b> 設計・製造・テスト ▽講義 設計 ▽実習 システムヒアリング 基本設計 データベース設計	<b>■</b> 設計・製造・テスト ▽講義 製造・テスト ▽実習 プログラミング テスト仕様書作成
4月30日(月)	5月1日(火)	5月2日(水)	5月3日(木)	5月4日(金)
振替休日	<b>■</b> 設計・製造・テスト ▽実習 プログラミング テスト仕様書作成	<b>■</b> 設計・製造・テスト ▽実習 システムプレゼンテーション レビュー	憲法記念日	みどりの日こどもの日

# 専門技術研修(初級)

## ■目的

ITエンジニアとして、基本的な業務を上級者のサポートを一部受けながら実施できる技術力がある

## ■目標

1. プログラミング言語（Java）に関して理解と知識があり、自らの力でプログラムを組むことができる
2. 仕様書をもとに、自らの力でアルゴリズムを組むことができる
3. 「データベース」に関して、業務を遂行する上で必要な基礎知識・技術が身に付く  
[基準レベル：共通キャリア・スキルフレームワーク(CCSF)1レベル]
4. 「ネットワーク・通信」に関して、業務を遂行する上で必要な基礎知識・技術が身に付く  
[基準レベル：共通キャリア・スキルフレームワーク(CCSF)1レベル]

## ■特徴

1. ITスキルに応じたレベル分け

IT技術のレベルに応じて、クラス分けをします。基礎、応用、発展と演習をレベルに応じて準備をしています。進み具合は変わりますが、一步一步理解をし、納得しながら進めることができます。  
※学習速度が伴わない受講生に特別訓練（通称「IT版ブートキャンプ」）を設けています。

2. 全体像をつかむことを意識する

アルゴリズム・フローチャートを使い、基本構文や処理を単体で終えるだけでなく、機能のつながり等を意識しながら、全体感をもって、学習を進めます。

## ■期間・時間

5月7日～5月31日（19日間・152時間） 9：00～18：00

## ■研修形式

講義（インプット学習）と実習（アウトプット学習）を繰り返しながら進める。

演習は、個別学習型で課題を各自が取り組み、学習理解を深めていく

講師によるチューター形式の指導で個別対応を実現

## ■学習内容

コンピューター基礎	・コンピューターの仕組み、5大装置、データの処理フロー、アプリケーションの種類
プログラミング基礎	・アルゴリズム、フローチャート、デバック
Java基礎	・基本構文(順次処理、選択処理、反復処理)、配列・Collection、クラスの基本・構成・メソッド、継承・コンストラクタ・オーバーライド/ロード、抽象クラス・インターフェイス、例外処理・スレッド
ネットワーク・通信基礎	・通信動作の基礎、TCP/IP、OSI基本参照モデル、通信プロトコル、LAN・WAN、ルータ・スイッチ、ファイアーウォール・UTM、サーバの基礎（OS等）、DNS・Mail、仮想化
データベース基礎	・データモデル、RDBMSの構成、SQL(DDL)、SQL(DML)、SQL(DCL)、SQL(正規化)、SQL(結合)
環境構築	・実行環境構築



## ■目的

実際のシステム開発プロジェクトへの配置に向けて、開発現場で求められる知識・スキルを身につける。

## ■目標

1. JDBC を利用したデータベースプログラミングを理解し、データベースを使用したアプリケーションが作成できるようになる。
2. MVC モデルを理解し、JSP/Servlet による Web アプリケーションが作成できるようになる。
3. ソフトウェアテストの概要・工程を理解し、単体テストツールを利用した単体テストができるようになる。
4. グループによる開発演習を通じて、実際のシステム開発に必要なエッセンスを理解する。
5. Spring Framework を用いて、DI コンテナ・AOP・OR マッピングフレームワークを理解する。

## ■期間・時間

6月1日～6月30日（21日間・168時間） 9：00～18：00

## ■研修形式

講義（インプット学習）と実習（アウトプット学習）を繰り返しながら進める。

演習は、個別学習型で課題を各自が取り組み、学習理解を深めていく

講師によるチューター形式の指導で個別対応を実現

## ■学習内容

### Javaデータベースプログラミング

・JDBC基礎知識、データアクセス、DAOパターン、O/Rマッピング

### JSP/Servletプログラミング

・Servletの概要、HTTPリクエスト、HTTPレスポンス、Servletの作成(GET、POST)、Filter、JSPの概要、JSPの基礎、ディレクティブ、暗黙のオブジェクト、スタンダードアクション、JSP/Servletの役割、JSP/Servletの連携、セッション、EL式、JSTL、MVCモデル

### ソフトウェアテスト

・ソフトウェアテストの概要、テスト工程、ホワイトボックステスト、ブラックボックステスト、JUnitの概要、テストクラスの作成、DBUnitの概要、更新系のテスト、参照系のテスト

### 開発演習

・システム開発概論、システム開発の流れ、UML基礎、ユースケース図、クラス図、アクティビティ図、Subversion、Web開発演習、要件定義、設計、製造、試験、プレゼンテーション

### Spring Framework

・Spring Framework概要、DIコンテナ、AOP、SpringによるDBアクセス、宣言トランザクション、アノテーションドリブン、SpringMVC

## 2018 年度研修スケジュール（予定）

5 月 28 日(月)	5 月 29 日(火)	5 月 30 日(水)	5 月 31 日(木)	6 月 1 日(金)
				<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 JDBC 基礎知識 データアクセス前半
6 月 4 日(月)	6 月 5 日(火)	6 月 6 日(水)	6 月 7 日(木)	6 月 8 日(金)
<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 データアクセス後半	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 データアクセス後半 DAO パターン	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 O/R マッピング Servlet の概念 HTTP リクエスト HTTP レスポンス Servlet (GET) の作成	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 Servlet (POST) の作成	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 Filter JSP の概要 JSP の基礎 ディレクティブ 暗黙オブジェクト
6 月 11 日(月)	6 月 12 日(火)	6 月 13 日(水)	6 月 14 日(木)	6 月 15 日(金)
<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 スタンドアクション JSP/Servlet の役割 JSP/Servlet の連携	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 セッション	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 EL 式	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 JSTL MVC モデル	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 ソフトウェアテストの概念 テスト工程 ホワイトボックステスト ブラックボックステスト JUnit の概要 テストクラスの作成
6 月 18 日(月)	6 月 19 日(火)	6 月 20 日(水)	6 月 21 日(木)	6 月 22 日(金)
<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 DBUnit の概要 更新系のテスト 参照系のテスト	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 システム開発概論 システム開発の流れ	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 UML 基礎 ユースケース図 クラス図 アクティビティ図	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 Subversion Web 開発演習 要件定義 設計	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 設計 製造
6 月 25 日(月)	6 月 26 日(火)	6 月 27 日(水)	6 月 28 日(木)	6 月 29 日(金)
<b>■Java 応用</b> ▽演習 製造	<b>■Java 応用</b> ▽演習 テスト・試験	<b>■Java 応用</b> ▽演習 システムプレゼンテーション レビュー	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 DI コンテナ Spring Framework AOP	<b>■Java 応用</b> ▽講義・演習 Spring による DB アクセス 宣言トランザクション アノテーションリファレンス SpringMVC



## ■研修カリキュラム例（「後輩への接し方」編）

時間割	内容	目的と研修展開
9:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ オリエンテーション 研修の目的と全体の流れ</li> <li>■ 11ヶ月間の振り返り これまでに行ってきた業務の棚卸 上手くいったこと、上手くいかなかったこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 研修の必要性及び目的を理解してもらう</li> <li>【個人ワーク→グループ討議】</li> </ul>
12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 今後どうすれば良いか？</li> </ul>	
昼食時間		
13:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 先輩社員として 心構え 役割 接し方 先輩体験 教育ゲームによる体験学習 振り返り</li> <li>■ 目標設定 目標設定（5年後、3年後、1年後）、行動計画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【講義→個人ワーク→演習】</li> <li>【個人ワーク→講師フィードバック】</li> </ul>
17:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 質疑応答・まとめ</li> </ul>	

## XON Academy(エクソンアカデミー)

※社員向け教育 XON Academy トレーニングメニューは別紙パンフレットをご参照ください。



## 株式会社シンカーミクセル

住所：〒107-6243

東京都港区赤坂 9-7-1

ミッドタウン・タワー43階

TEL：03-6440-0820（代表）

FAX：03-6440-0821

### ■お問い合わせ先

新入社員研修 事務局 [xinon@xinon.jp](mailto:xinon@xinon.jp)



※ このパンフレットの内容は 2018 年 01 月 11 日に改訂したものです。

Copyright Xincor miXell Co., Ltd. All rights reserved